

2024年3月及び2023年度(4-3月期)のアルミニウム圧延品の生産・出荷動向について

2024年4月30日発表



1. 2024年3月のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

◆ 概況:	・板:	生産・出荷ともにマイナス。「缶」「自動車」に加え内需のほぼ全分野においてマイナス、輸出も減少した。
	・押出:	生産・出荷ともにマイナス。「自動車」は前年並みだったが最大用途の「建設」のマイナスが続いている。
	・はく:	生産・出荷ともにマイナス。「電気機械器具」はリチウムイオン電池向けが再びマイナスに転じた。

・板類（主な分野のコメント） *数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 缶材 32,628トン (▲ 15.8%) : 天候不順によりビール、RTDともに出荷減、昨年が比較的高水準だったこともあり二桁マイナスとなった。
- (2) 自動車 16,941トン (▲ 13.3%) : 国内の自動車生産台数が大幅に減少した影響により、14ヶ月ぶりのマイナスとなった。

2024年2月の四輪車生産台数:624,977台(前年同月比▲15.4%)

・押出類（主な分野のコメント） *数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 建設 29,187トン (▲ 17.8%) : 2023年2月以来、住宅着工戸数は減少を継続しており、建設向け需要は低迷している。
2024年2月の住宅着工戸数:59,162戸(前年同月比▲8.2%)
- (2) 自動車 11,621トン (0.0%) : 自動車生産台数減少の影響はあるものの、トラック・バス向けはプラスを維持し下支えをした。

・はく（主な分野のコメント） *数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 電気機械器具 4,160トン (▲ 12.0%) : LIB, コンデンサともに電動工具などのパワーツール系やスマホ・PCなど、民生用需要の低調によりマイナスとなった。
(コンデンサ:▲11.1%、リチウムイオン電池:▲12.7%)
- (2) 食料品 1,864トン (▲ 4.1%) : 物価高騰による消費抑制が継続しており、マイナスとなった。

2024年3月実績 生産および出荷(前年同月比、▲はマイナス)

	生産(トン)	前年同月比(%)	コメント		出荷(トン)	前年同月比(%)	コメント
板類	87,099	▲ 15.9	マイナスに反転	板類	87,642	▲ 15.7	マイナスに反転
押出類	52,494	▲ 9.7	27ヶ月連続でマイナス	押出類	53,236	▲ 10.2	25ヶ月連続でマイナス
板押計	139,593	▲ 13.7	マイナスに反転	板押計	140,878	▲ 13.7	25ヶ月連続でマイナス
はく	7,804	▲ 11.6	25ヶ月連続でマイナス	はく	7,885	▲ 10.3	10ヵ月連続でマイナス

2. 2023年度（4～3月期）のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

（前年度比(%)、▲はマイナス）

	生産(トン)	前年度比(%)	コメント		出荷(トン)	前年度比(%)	コメント
板類	1,036,384	▲ 7.3	2年連続でマイナス	板類	1,030,917	▲ 6.9	2年連続でマイナス
押出類	637,868	▲ 4.4	2年連続でマイナス	押出類	650,466	▲ 4.4	2年連続でマイナス
板押計	1,674,252	▲ 6.2	2年連続でマイナス	板押計	1,681,383	▲ 6.0	2年連続でマイナス
はく	94,959	▲ 9.0	2年連続でマイナス	はく	95,780	▲ 9.1	2年連続でマイナス

◆ 出荷概況

2023年度の圧延品生産出荷は、生産、出荷ともにマイナスになった（生産：▲6.2%、出荷：▲6.0%）。

板類：「缶材」は物価上昇や酒税法改正などの影響により減少、「自動車」は自動車生産の回復に加え、車体用アルミパネルの採用が増加したことなどから大幅増となった。一方で半導体製造装置用の厚板を含む「その他」は二桁減少（▲21.4%）。世界的にPCやスマホなどの個人消費が低迷、世界経済の不透明感から企業の設備投資の動きも鈍化、半導体市場は低迷した。

押出類：「建設」は住宅着工戸数の減少やアルミから樹脂への素材転換などによりマイナス。「自動車」は板同様生産台数の回復により増加した。

はく：「食料品」は、物価上昇による買い控えの発生やレトルト食品用包材の素材転換などにより減少。

「電気機器」向けはコンデンサ、LIBともに世界的に需要が低迷しマイナスとなった。

◆ 主な分野のコメント： * 数字は出荷量、カッコ内は前年同期比

板類

- (1) 缶材 380,546トン (▲ 2.4%) : 家飲み需要減少や、物価上昇による消費抑制、酒税法改正などによりアルコール向けが減少、ボトル缶は脱プラによる水の採用は増加したものの、製品値上げの影響を受けてコーヒー用が減少、トータルでは前年度割れとなった。
- (2) 自動車 207,881トン (15.2%) : 半導体、部品不足の緩和により自動車生産が回復した他、軽量化（燃費改善）の観点から車体用パネル材の採用車種が増加し、大幅増となった。

押出類

- (1) 建設 366,670トン (▲ 11.7%) : 資材価格の高騰による住宅建設コストの高止まりや景気の先行き不透明感により住宅着工戸数が減少した他、住宅用サッシはアルミ製からアルミ樹脂複合、樹脂製への移行が進み、一戸あたりのアルミ建材重量が減少した。
- (2) 自動車 136,274トン (15.7%) : 板同様、自動車生産台数の回復の伴いプラス、トラックは一部メーカーの型式認定再取得からの挽回生産もあり大幅に増加、二輪車向けはコロナ禍でのアウトドア需要が落ち着き、反動減となった。

はく

- (1) 電機機械器具 49,340トン (▲ 11.7%) : 中国をはじめ世界経済の不透明感が高まり、個人消費や設備投資が減速、車載用LIBは一部回復の動きがあったものの、巣ごもり需要の反動減の継続もあり、電子部品向けはマイナスとなった。（コンデンサー▲15.6%、LIB▲6.6%）
- (2) 食料品 21,565トン (▲ 4.6%) : 各種値上げによる買い控えが発生し実需が低下、一部のレトルト食品は湯せんから電子レンジ対応のプラスチック容器に置き換わるなど、包装材料転換の影響もありマイナスとなった。